

蒲郡市子ども・子育て支援事業計画 令和元年度 進捗状況の点検・評価書

蒲郡市では、「みんなで育てよう 子どもの笑顔 かがやくまち 蒲郡」を基本理念に多様な子育て環境にあるどの家庭も等しく質の高い保育や子育て支援を受けることができ、地域で安心して子育てをすることができるまちづくりを目指しています。その手段として蒲郡市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育及び幼児期の教育と子ども・子育て支援の充実を順次図り、計画に示した各種子育て支援施策（事業）を推進しています。

本計画に定めた各種事業の点検・評価を通じ、質の高い保育・幼児期教育やニーズに応じた子育て支援事業の実現に向けた現在の取り組み内容及びその進捗状況を確認することで、新たな課題の抽出や効果的な事業展開に役立てるとともに、今後の施策及び事業の見直し・改善に役立てていきます。

なお、点検・評価に当たっては「蒲郡市子ども・子育て会議」がその中心を担い、市民の皆さまに公表していきます。

令和 2年 10 月
蒲郡市子ども・子育て会議

蒲郡市子ども・子育て支援事業計画

進捗状況の点検・評価を行う14事業・項目

平日日中の教育・保育の提供

1号認定（3歳以上保育の必要なし）	子育て支援課	1
2号認定（3歳以上保育の必要あり）	子育て支援課	2
3号認定（3歳未満保育の必要あり）	子育て支援課	3

地域子ども・子育て支援事業

時間外保育事業（延長保育事業）	子育て支援課	4
放課後児童健全育成事業（児童クラブ）	（教）庶務課	5
子育て短期支援事業（ショートステイ）	子育て支援課	6
地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）	子育て支援課	7
一時預かり事業	子育て支援課	8
病児保育事業	子育て支援課	9
子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の就学児童対象部分	子育て支援課	10
利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）	子育て支援課	11
乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）	健康推進課	12
養育支援訪問事業	健康推進課	13
妊婦健康診査	健康推進課	14

令和元年度事業のまとめ（寸評）

事業・項目名		事業担当課による自己評価	子ども・子育て会議が考える今後の課題
1	1号認定 （3歳以上保育の必要なし）	幼児教育・保育無償化に伴い、これまで以上に幼稚園との情報共有や事務手続き等の連携を密に行いました。	木船幼稚園が認定こども園に移行し、保育園の認定を受けることが可能となり、全体的に園児は減少していますが、幼児教育・保育の無償化により、入園を希望する園児は増加しています。これまで以上に幼稚園との情報の共有化を図る必要があります。
2	2号認定 （3歳以上保育の必要あり）	関係機関と情報共有を行い、未就園児の実態把握に努めました。	保育ニーズの把握に努め、引き続き関係機関と連携しながら児童やその家族にとって最善の支援を提供できるよう検討の必要があります。その中の1つとして入所要件の緩和を検討する必要があります。
3	3号認定 （3歳未満保育の必要あり）	保育の質にも十分配慮しながら、待機児童が生じないよう低年齢児の受け皿の確保や保育士の確保に努めました。	低年齢児の保育ニーズ増加による受け皿確保が引き続き課題です。併せて保育の質の充実、保育が必要な方に保育が提供できるよう保育士の確保にも十分配慮する必要があります。
4	時間外保育事業 （延長保育事業）	保護者のニーズを確保することができていますので、家庭で子どもと十分過ごすことができるような環境改善の方法を検討します。	引き続き、保護者からの延長保育ニーズに対応できるよう保育士の確保と子どもがゆつたりと過ごせる環境作りが必要です。
5	放課後児童健全育成事業 （児童クラブ）	児童クラブ数を平成30年度の17クラブから21クラブに拡大し、当初申込者（前年10月）の待機児童の解消を図った。待機児童数は年度途中の入所希望者は数名いたが、市民ニーズにできるだけ応えるよう努めている。	子どもたちの放課後の適切な環境作りのために、保護者のニーズを把握し、量の拡充及び質の確保により一層取り組む必要があります。
6	子育て短期支援事業 （ショートステイ）	保護者の出産や病気等の理由による家庭での養育が一時的な困難になった子どもに対し、適切に対処することができました。今後とも、市が委託している児童養護施設等と連携し、預けられる事業体制を継続していく必要があります。	必要とする方が活用できるように、今後もあらゆる機会をとらえて事業の周知を図ることが求められます。
7	地域子育て支援拠点事業 （子育て支援センター事業）	利用者の口コミや相談機関からの紹介が潜在利用者の利用につながった。子育てコンシェルジュの配置、スタッフの相談スキル向上、育児講座の充実から再利用者が増え、結果スタッフと信頼関係が深まったなどが、相談件数の増につながった。	保護者支援のため、利用しやすい環境作りに取り組むとともに、虐待防止の観点からも、引き続き潜在的利用者の利用促進を図る取り組みが求められます。
8	一時預かり事業	トラブルなく受け入れをすることができました。幼児教育・保育の無償化対象事業になった為、保育士の事務負担が増えました。	より良い子育てに繋げていくという観点から、引き続き、保護者に積極的に周知するとともに、いろいろなニーズに対応できるよう検討する必要があります。
9	病児保育事業	事業を広く周知させる為、チラシの配布を行いました。昨年度に引き続き小学校、それに加えて子育てフェスティバルでも配りました。年間登録者数は昨年よりも増えました。	利用の周知に努めるとともに、必要な方が利用しやすい事業となるよう検討する必要があります。
10	子育て援助活動支援事業の就学児童対象部分（ファミリー・サポート・センター）	ここ数年の中では最も援助会員を増やすことができ、活動件数も増えました。引き続き、援助会員を募り、依頼会員のニーズに応えられるよう体制を強化していく必要があります。	引き続き、支援を必要としている方へ事業周知に努めるとともに、依頼会員のニーズに応えられる援助会員の確保が求められます。
11	利用者支援事業 （子育てコンシェルジュ）	子育て世代包括支援センター開設により、今まで手薄であった部分のニーズにも対応することが可能になりました。子育て支援センター、子育て支援課、子育て世代包括支援センター、それぞれの事業実施形態メリットを活かした利用者支援を実施するよう心掛けてきました。	引き続き、子どもや保護者が身近な場所において、必要なときに子育て支援が受けられるよう情報発信及び提供が求められます。
12	乳児家庭全戸訪問事業 （こんにちは赤ちゃん訪問）	引き続き、全家庭を訪問できるように努めていきます。訪問できなかった場合は、地区の担当保健師が4か月児健診来所時に面接し情報提供や養育支援方法を確認していきます。	ほとんどの家庭に訪問できており、未実施の状況把握もできています。引き続き、早期の訪問と支援が求められます。
13	養育支援訪問事業	今後も課内の連絡会で支援状況を確認し、必要な対象者に対して必要な時期に訪問ができるように努めていきます。	頻回な支援が必要な家庭が増えています。これまで以上に関係機関と連携して、すべての家庭に必要な支援を受けることができるよう実施体制を構築することが求められます。
14	妊婦健康診査	引き続き、医療機関と連携し、妊産婦・乳児健診の受診勧奨に努めていきます。	ほとんどの妊婦が健診を受診できており、引き続き現在の実施体制で健診を実施し、妊婦の健康の保持及び増進を図ることが求められます。
その他全体にかかわる課題		ニーズの把握に努めつつ、子育て支援の必要な方が利用しやすくなるよう、より一層の事業の周知が求められます。また、支援者の質の向上を図りつつ、関係機関との連携を密にして事業の充実に努める必要があります。	

評価書の構成・見方

1 事業名	この事業の名称を記載しています。
2 事業担当課	この事業の担当課を記載しています。
3 事業内容	この事業の内容を記載しています。
4 確保方策（計画）	計画では、就学前児童及び小学生の各保護者を対象に平成25年11月～12月に実施したニーズ調査等を踏まえ、この事業の実施目的を達成するために準備すべき数量（対象人数や対象施設数など）を定めています。この「 量の見込み 」を満たすための手段（内容や実施時期など）を「 確保方策 」とし、計画で定めた「確保方策」の内容を記載しています。つまり、「量の見込み」とは「市民からの必要希望数」と、「確保方策」とは「市民ニーズの受入体制」と言い換えることができます。
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価	計画値に対する令和元年度までの実績値を記載した上で、2つの「評価指標」を基に事業担当課が実施した評価結果を○×で分かりやすく記載しています。
（計画値・実績値）	計画値には「量の見込み」と「確保方策」の数値を、実績値には「利用申込数（保護者の希望）」「利用者数（結果）」「過不足（差引）」などの数値を記載しています。実績値は、当該年度内における最大値（事業番号6～14は、当該年度の末日現在の数値）を記載することで、評価指標①の判定の参考になります。また、事業によって「量の見込み」に対する「利用者数」などの割合を「利用率」として記載しています。この「利用率」を高めていくことが求められます。
（評価指標①）	評価指標①では、計画通りに準備が進められたかどうかを判定します。具体的には、「確保方策」の計画値（B）を満たすことができる体制が確保されていると判定したときは「○」を、確保されていないと判定したときは「×」を記載しています。
（評価指標②）	評価指標②では、計画で定めた「確保方策」自体が現実の保護者のニーズを満たしているかどうかを判定します。具体的には、「確保方策」の計画値（B）－「利用申込数など」（C）の値がプラスのときは「○」を、マイナスのときは「×」を記載しています。
6 自己評価（事業担当課）	令和元年度事業に対する担当課の自己評価として、（1）評価指標の補足説明、（2）事業評価を行う上で参考となる実績値、（3）事業の課題や今後の考えなど（所見）を記載しています。
7 委員から出された課題	5・6の内容を受け、子ども・子育て会議委員から出された課題を記載しています。
8 この事業全体を通じた課題	7の課題の中から、子ども・子育て会議のまとめとして、この事業全体を通じた課題を記載しています。

1 事業名	1	1号認定（3歳以上保育の必要なし）	6の続き (2) 認定児童数の実績値 <table border="1" data-bbox="1243 268 1953 448"> <tr> <td></td> <td>最大値 (令和2年3月)</td> <td>平成31年 4月1日時点</td> <td>年度途中の認定</td> </tr> <tr> <td>認定児童数(人)</td> <td>616</td> <td>571</td> <td>45</td> </tr> </table>		最大値 (令和2年3月)	平成31年 4月1日時点	年度途中の認定	認定児童数(人)	616	571	45																																				
	最大値 (令和2年3月)	平成31年 4月1日時点		年度途中の認定																																											
認定児童数(人)	616	571		45																																											
2 事業担当課	子育て支援課																																														
3 事業内容	1号は、平日日中において、3歳以上の児童で保育の必要がないときに認定するものですが、保護者の就労等で保育の必要があっても、幼稚園の入園を希望する(2号認定教育ニーズ)ときは1号として認定しています。																																														
4 確保方策(計画)	市内の3幼稚園の収容定員(697人)のうち市内児童の割合分(97.0%)と特定教育・保育施設(認定こども園)の利用定員の合計を確保方策として設定し、量の見込みをすべて確保します。																																														
5 進捗状況(計画・実績値)及び評価			(3) 所見																																												
(計画・実績値)			今後も計画どおりに体制を確保し、1号認定ニーズの把握に努めていくとともに、幼稚園との情報の共有化を図ります。																																												
単位：人/年			7 委員から出された課題等																																												
<table border="1" data-bbox="280 533 1093 871"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>672</td> <td>647</td> <td>662</td> <td>645</td> <td>638</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>676</td> <td>731</td> <td>710</td> <td>710</td> <td>710</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>申請児童数(C)</td> <td>670</td> <td>687</td> <td>672</td> <td>659</td> <td>616</td> </tr> <tr> <td>認定児童数(D)</td> <td>670</td> <td>687</td> <td>672</td> <td>659</td> <td>616</td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>99.7%</td> <td>106.2%</td> <td>101.5%</td> <td>102.2%</td> <td>96.6%</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	672	647	662	645	638	確保方策(B)	676	731	710	710	710	実績値	申請児童数(C)	670	687	672	659	616	認定児童数(D)	670	687	672	659	616	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0	利用率	99.7%	106.2%	101.5%	102.2%	96.6%	幼稚園の入園ニーズについて ・実績値で見ると、この5年間、5園で54人の子供数が少なくなっていることとなります。単純に計算すると1園あたり10人ずつ子供が減少していることとなります。今後のことを考えると、もっとニーズを調査する必要があると思います。 →減少傾向にあるなかで、平成30年度と比較して令和元年度が減少した理由としましては、令和元年度から木船幼稚園が認定こども園に移行をし、保育園の認定を受けることが可能となったためです。 今後も幼稚園との情報共有、1号認定ニーズの把握に努めてまいります。 ・幼稚園で行う満3歳児の受け入れも幼児教育・保育無償化対象となり、年少の4月を待たず、満3歳児で受け入れる幼稚園も増え、満3歳児で入園する園児も増えた。 ・年少児以上は児童発達支援事業(療育施設)と併用してもどちらも無償化対象のため、利用しやすく、併用の実績が増えている。
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																										
計画値	量の見込み(A)	672	647	662	645	638																																									
	確保方策(B)	676	731	710	710	710																																									
実績値	申請児童数(C)	670	687	672	659	616																																									
	認定児童数(D)	670	687	672	659	616																																									
	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0																																									
利用率	99.7%	106.2%	101.5%	102.2%	96.6%																																										
※利用率：量の見込みと認定児童数との比較【(D)÷(A)×100%】																																															
(評価)																																															
<table border="1" data-bbox="280 959 1093 1102"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	○	○	○	○	○	評価指標②	○	○	○	○	○																											
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																										
評価指標①	○	○	○	○	○																																										
評価指標②	○	○	○	○	○																																										
6 令和元年度事業に対する自己評価(事業担当課)																																															
(1) 評価指標の補足説明			8 この事業全体を通した課題																																												
令和元年度は、「蒲郡あけぼの幼稚園」、「蒲郡あさひこ幼稚園」、「木船幼稚園」の市内3園と市外の幸田町にある「幸田あけぼの第二幼稚園」及び「鹿島こども園」の計5園で対象児童を受け入れ、量の見込みを上回る体制を確保できました(評価指標①)。 確保方策は申請児童数を上回っています(評価指標②：B-C)。利用率は100%を下回っておりません。 また、利用定員の範囲内で満3歳児の受け入れを行っている園もあり、実績値にはその児童数も計上しています。令和元年度は、年度末(令和2年3月)に「木船幼稚園」「蒲郡あけぼの幼稚園」「蒲郡あさひこ幼稚園」「鹿島こども園」で、計57名の満3歳児の受け入れ実績がありました。			木船幼稚園が認定こども園に移行し、保育園の認定を受けることが可能となり、全体的に園児は減少していますが、幼児教育・保育の無償化により、入園を希望する園児は増加しています。これまで以上に幼稚園との情報の共有化を図る必要があります。																																												

1 事業名	2	2号認定（3歳以上保育の必要あり）	6の続き																																															
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 認定児童数の実績値																																															
3 事業内容	2号は、平日日中において、3歳以上の児童で保育の必要があるときに認定するものです。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>最大値 (令和2年1月)</td> <td>平成31年 4月1日時点</td> <td>年度途中の認定</td> </tr> <tr> <td>認定児童数(人)</td> <td>1,203</td> <td>1,161</td> <td>42</td> </tr> </table> <p>※実績値は最大値である令和2年1月時点の申請児童数(C)と認定児童数(D)としています。</p> <p>〈参考〉平成31年4月1日時点</p> <table border="1"> <tr> <td>申請児童数</td> <td>認定児童数</td> <td>差引</td> </tr> <tr> <td>1,197</td> <td>1,161</td> <td>36</td> </tr> </table>					最大値 (令和2年1月)	平成31年 4月1日時点	年度途中の認定	認定児童数(人)	1,203	1,161	42	申請児童数	認定児童数	差引	1,197	1,161	36																														
	最大値 (令和2年1月)	平成31年 4月1日時点	年度途中の認定																																															
認定児童数(人)	1,203	1,161	42																																															
申請児童数	認定児童数	差引																																																
1,197	1,161	36																																																
4 確保方策 (計画)	市内の18保育園・認定こども園の入所定員の合計を利用定員として設定し、量の見込みをすべて確保します。																																																	
5 進捗状況(計画・実績値)及び評価																																																		
(計画・実績値)			単位：人/年																																															
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>1,188</td> <td>1,143</td> <td>1,171</td> <td>1,140</td> <td>1,127</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>1,391</td> <td>1,391</td> <td>1,382</td> <td>1,382</td> <td>1,382</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>申請児童数(C)</td> <td>1,244</td> <td>1,218</td> <td>1,166</td> <td>1,136</td> <td>1203</td> </tr> <tr> <td>認定児童数(D)</td> <td>1,226</td> <td>1,193</td> <td>1,166</td> <td>1,136</td> <td>1203</td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>18</td> <td>25</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>103.2%</td> <td>104.4%</td> <td>99.6%</td> <td>99.6%</td> <td>106.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※利用率：量の見込みと認定児童数との比較【(D)÷(A)×100%】</p>				区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	1,188	1,143	1,171	1,140	1,127	確保方策(B)	1,391	1,391	1,382	1,382	1,382	実績値	申請児童数(C)	1,244	1,218	1,166	1,136	1203	認定児童数(D)	1,226	1,193	1,166	1,136	1203	差引(C)-(D)	18	25	0	0	0	利用率	103.2%	104.4%	99.6%	99.6%	106.7%
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																													
計画値	量の見込み(A)	1,188	1,143	1,171	1,140	1,127																																												
	確保方策(B)	1,391	1,391	1,382	1,382	1,382																																												
実績値	申請児童数(C)	1,244	1,218	1,166	1,136	1203																																												
	認定児童数(D)	1,226	1,193	1,166	1,136	1203																																												
	差引(C)-(D)	18	25	0	0	0																																												
利用率	103.2%	104.4%	99.6%	99.6%	106.7%																																													
(評価)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	○	○	○	○	○	評価指標②	○	○	○	○	○																										
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																													
評価指標①	○	○	○	○	○																																													
評価指標②	○	○	○	○	○																																													
6 令和元年度事業に対する自己評価(事業担当課)																																																		
(1) 評価指標の補足説明																																																		
令和元年度についても、例年と同様、公立保育園16園と私立保育園(認定こども園)3園(みどり保育園・鹿島こども園・木船幼稚園)で対象児童を受け入れ、量の見込みを上回る体制を確保できました(評価指標①)。																																																		
確保方策は申請児童数を上回っています(評価指標②：B-C)。利用率は106.7%であり、量の見込みと申請児童数がほぼ同じであるが、園によっては定員を超える申請があり、入所の園を調整しました。																																																		
			7 委員から出された課題等																																															
			<p>保育ニーズについて</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ、みどり保育園に申し込みが集中しましたか？特に子供が多いエリアではないので、親が希望した理由があると思います。それを調査し、他の保育園に情報を提供することが求められると思います。 →理由としては、低年齢児から受入をしている、開所時間が長い等の保育サービスが充実していることが挙げられます。また、既に兄弟が入所している(入所していた)、園の運営方針・理念に共感した等の理由で申込をされる方もいらっしゃいます。そのため、東部地区だけでなく三谷地区、竹島地区等の他のエリアに居住されている方からも申し込みがあるため、申し込みが集中しています。 ・他の保育園でも同様の開所時間の延長、もしくは低年齢児の受け入れを検討するという予定はありますか。 →低年齢児保育と延長保育のニーズは年々高まっており、これに 대응していきたいと思っています。塩津保育園で来年度から新たに低年齢児保育を開業するよう準備を進めています。 <p>入所要件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園に通う園児の兄弟児が、母子通園型の児童発達支援事業を利用する際は、保育に欠ける要件に該当するが、保育園に通う園児が母子通園型の児童発達支援事業に通所する場合は、通所時間は該当しないため、その園児の母は、母子通園に通う時間以外に月64時間の就労が必要。母が通っていることに変わりはなく、通所時間中は就労できないので保育園に通う週の2～3日の時間や夜間や土日に内職で要件を満たすようにしており大変である。 →就労時間で64時間を満たすことが望ましいが、64時間を満たすことが困難な場合に通所時間も考慮することが可能かどうか検討していく考えです。 																																															
			8 この事業全体を通した課題																																															
			<p>保育ニーズの把握に努め、引き続き関係機関と連携しながら児童やその家族にとって最善の支援を提供できるよう検討の必要があります。その中の1つとして入所要件の緩和を検討する必要があります。</p>																																															

1 事業名	3	3号認定（3歳未満保育の必要あり）				
2 事業担当課	子育て支援課					
3 事業内容	3号は、平日日中において、3歳未満の児童で保育の必要があるときに認定するものです。					
4 確保方策（計画）	0～2歳児クラスを実施している市内の保育園・認定こども園の受入基盤の確保を進め、0歳児では平成30年度までに保育園・認定こども園で量の見込みをすべて確保し、1・2歳児では、認可外保育施設での受入数を含め平成29年度には量の見込みをすべて確保します。					
5 進捗状況（計画・実績値）及び評価						
（計画・実績値）						
単位：人／年						
区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
計画値	量の見込み（A）	459	456	426	417	406
	確保方策（B）	450	450	450	447	441
実績値	申請児童数（C）	497	466	491	537	528
	認定児童数（D）	469	441	491	537	528
	差引（C）-（D）	28	25	0	0	0
利 用 率		102.2%	96.7%	115.3%	128.8%	130.0%
※利用率：量の見込みと認定児童数との比較【（D）÷（A）×100％】						
（評 価）						
評価指標名		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
評価指標①		×	○	○	○	○
評価指標②		×	×	×	×	×

6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）

（1）評価指標の補足説明（特定教育・保育施設）

令和元年度についても、例年と同様、公立保育園と私立保育園（認定こども園）3園（みどり保育園・鹿島こども園・木船幼稚園）で406人の児童の受入れを確保する計画（必要保育士数79人）に対して、認定児童数が上回っておりますが、年度途中で10人の保育士を新たに確保することで対応しました。よって待機児童は生じていません。（評価指標①）。確保方策は申請児童数を下回っています（評価指標②：B-C）。

6の続き				
（2）年齢別の内訳と認定児童数の実績値				
単位：人／年				
区 分		令和元年度		
		0歳児	1・2歳児	
		特定教育・保育施設		認可外（※）
計画値	量の見込み（A）	61	345	
	確保方策（B）	63 (必要保育士数 21名)	345 (必要保育士数 58名)	33
実績値	申請児童数（C）	60 (必要保育士数 20名)	409 (必要保育士数 69名)	59
	認定児童数（D）	60	409	59
	差引（C）-（D）	0	0	0
利 用 率		98.4%	135.7%	
※認可外保育施設：				
光の園、おひさまキッズ、ヤクルト蒲郡センター保育ルーム、蒲郡東部病院保育所、ぴっころ、蒲郡市民病院院内保育所、ワイワイルーム				
		最大値 (令和2年1月)	平成31年 4月1日時点	年度途中の 認定
認定児童数（人）		528	478	50
※平成31年4月1日時点の申請児童数は、0歳児28人、1・2歳児424人、認可外保育施設59人の合計511人。				
（3）所見				
認定児童数は、令和2年1月が最も多く、年間を通して待機児童は生じませんでした。待機児童は生じていない状況ですが、0から2歳児の在園児数と入所申請数が毎年増加しているため、引き続き保育士の確保を進め、計画どおりの体制以上を確保する必要があります。				
認可外保育施設については、保護者への経済的支援及び保育の質の向上の観点から地域型保育事業への移行促進に努めます。また、認可施設に移行しない場合についても、市も一緒に関わり、保育の質の向上に取り組んでいきます。				
7 委員から出された課題等				
認可外保育施設について				
・「蒲郡市民病院院内保育所」については、認可施設に移行しないのはなぜですか。				
→蒲郡市民病院院内保育所は、蒲郡市民病院に勤務する助産師、看護師および准看護師の確保対策ならびに市民病院に勤務する職員の福利を目的として設置したものであるから、認可施設に移行しないものと思われます。				
低年齢児の受け入れ体制について				
・量的な確保は図られていると拝察いたします。引き続き、保育の質の充実、保育士の確保にご尽力ください。				
・最も保育の必要な家庭に対する事業になるので、調査対象は、市内に住む既婚家庭全てに行う必要があると思います。親の協力を得られない、通勤時間が長い、フルタイムで働く女性が子供を諦めなくてもいいように、もっとサポートできる体制を整えるべきではないでしょうか。				
→今後も、保育の必要性のあるお母さんが保育園で受け入れられる体制がとれるよう、保育士の確保や低年齢児の受け皿の確保に努めてまいります。				
8 この事業全体を通した課題				
低年齢児の保育ニーズ増加による受け皿確保が引き続き課題です。				
併せて保育の質の充実、保育が必要な方に保育が提供できるよう保育士の確保にも十分配慮する必要があります。				

1 事業名	4	時間外保育事業（ 延長保育事業 ）
2 事業担当課	子育て支援課	
3 事業内容	早朝や夕方などに保育を必要とする児童を、8時間または11時間を超えて保育を行うことで、保護者の需要に対応する事業です。	
4 確保方策（計画）	現行の保育園の運営体制で量の見込みをすべて確保します。	

5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価

（計画・実績値）

単位：人／年

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
計画値	量の見込み（A）	346	337	332	323	318
	確保方策（B）	346	337	332	323	318
実績値	利用申込数（C）	233	189	216	244	233
	利用者数（D）	233	189	216	244	233
	差引（C）-（D）	0	0	0	0	0
利 用 率		67.3%	56.1%	65.1%	75.5%	73.3%

※利用率：量の見込みと利用者数との比較【（D）÷（A）×100％】

（評 価）

評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
評価指標①	○	○	○	○	○
評価指標②	○	○	○	○	○

6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）

（1）評価指標の補足説明

令和元年度についても、公立保育園14園と私立保育園（認定こども園）3園（みどり保育園・鹿島こども園・木船幼稚園）で対象児童を受け入れ、量の見込みを確保できる体制を確保できました（評価指標①）。途中入所、利用変更の児童がいるため、年度末（令和2年3月）の人数を実績値としています。
確保方策自体は利用申込数を上回っています（評価指標②：B-C）。

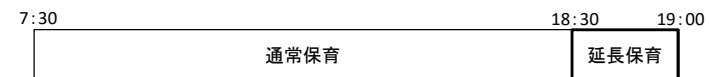
6 の続き

（2）認定区分ごとの利用者数

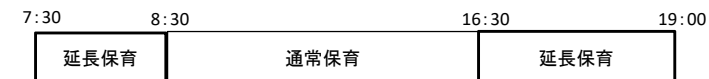
令和元年度	保育標準時間認定児童	保育短時間認定児童	計
利用者数（人）	81	152	233

○延長保育の利用可能時間

保育標準時間認定（7：30～18：30）の場合



保育短時間認定（8：30～16：30）の場合



※開所時間の都合より、延長保育が利用できない園や利用時間が制限される園があります

（3）所見

利用率が73.3%にとどまっているのは、保育認定制度（保育標準時間と保育短時間）の導入により、適正な時間の保育を受けられるようになり、各区分を超える時間における保育を希望する保護者が減少したためと考えています。延長保育時間に従事する保育士の確保と子どもがゆったりと過ごせる環境作りができるよう努めます。

7 委員から出された課題等

延長保育ニーズについて

- ・保育時間の「適正化」は誰にとっての保育かという問題と向き合うことになるのかと思います。「子どもたちにとって」でありたいと願います。
- ・事業3同様、調査対象を増やすべきと考えます。

8 この事業全体を通した課題

引き続き、保護者からの延長保育ニーズに対応できるよう保育士の確保と子どもがゆったりと過ごせる環境作りが必要です。

1 事業名	5	放課後児童健全育成事業（児童クラブ）																																																														
2 事業担当課	教育委員会 庶務課																																																															
3 事業内容	放課後、保護者の方が就労などの事由により家庭にいない小学生に、遊びと生活の場を提供し、安全に保護します。 児童福祉法の改正により、平成27年度から高学年についても、児童クラブの対象児童となりました。 児童クラブ開所時間は、放課後から午後7時までです。																																																															
4 確保方策（計画）	各小学校区に1か所設置しています児童クラブ（13クラブ）の受入基盤の拡充・確保を進め、令和元年度までに量の見込みをすべて確保します。																																																															
5 進捗状況（計画・実績値）及び評価	<p>（計画・実績値）</p> <p style="text-align: center;">単位：人日／年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み（A）</td> <td>588</td> <td>585</td> <td>575</td> <td>672</td> <td>699</td> </tr> <tr> <td>確保方策（B）</td> <td>457</td> <td>475</td> <td>498</td> <td>632</td> <td>699</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数（C）</td> <td>579</td> <td>608</td> <td>662</td> <td>658</td> <td>717</td> </tr> <tr> <td>利用者数（D）</td> <td>551</td> <td>584</td> <td>576</td> <td>658</td> <td>717</td> </tr> <tr> <td>差引（C）-（D）</td> <td>28</td> <td>24</td> <td>86</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>93.7%</td> <td>99.8%</td> <td>100.2%</td> <td>97.9%</td> <td>102.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※利用率：量の見込みと利用者数との比較【（D）÷（A）×100%】</p> <p>（評 価）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み（A）	588	585	575	672	699	確保方策（B）	457	475	498	632	699	実績値	利用申込数（C）	579	608	662	658	717	利用者数（D）	551	584	576	658	717	差引（C）-（D）	28	24	86	0	0	利用率	93.7%	99.8%	100.2%	97.9%	102.6%	評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	○	○	○	○	○	評価指標②	×	×	×	×	×
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																											
計画値	量の見込み（A）	588	585	575	672	699																																																										
	確保方策（B）	457	475	498	632	699																																																										
実績値	利用申込数（C）	579	608	662	658	717																																																										
	利用者数（D）	551	584	576	658	717																																																										
	差引（C）-（D）	28	24	86	0	0																																																										
利用率	93.7%	99.8%	100.2%	97.9%	102.6%																																																											
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																											
評価指標①	○	○	○	○	○																																																											
評価指標②	×	×	×	×	×																																																											
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）	<p>（1）評価指標の補足説明</p> <p>令和元年度は、計画値の699人では待機児童が出てしまいますので、クラブを増設して定員750人にしました。 確保方策は利用申込数を下回っていますが（評価指標②：B-C）、令和元年度から更なる受入体制を整えた結果、（B）よりも実際の定員の方が人数が多くなりました。</p>																																																															

6の続き																																					
（2）学年別の内訳																																					
単位：人日／年																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th colspan="2">令和元年度</th> </tr> <tr> <th>低学年</th> <th>高学年</th> <th>低学年</th> <th>高学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み（A）</td> <td>617</td> <td>55</td> <td>640</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>確保方策（B）</td> <td>601</td> <td>31</td> <td>640</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数（C）</td> <td>613</td> <td>45</td> <td>668</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>利用者数（D）</td> <td>613</td> <td>45</td> <td>668</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>差引（C）-（D）</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区 分		平成30年度		令和元年度		低学年	高学年	低学年	高学年	計画値	量の見込み（A）	617	55	640	59	確保方策（B）	601	31	640	59	実績値	利用申込数（C）	613	45	668	49	利用者数（D）	613	45	668	49	差引（C）-（D）	0	0	0	0
区 分			平成30年度		令和元年度																																
		低学年	高学年	低学年	高学年																																
計画値	量の見込み（A）	617	55	640	59																																
	確保方策（B）	601	31	640	59																																
実績値	利用申込数（C）	613	45	668	49																																
	利用者数（D）	613	45	668	49																																
	差引（C）-（D）	0	0	0	0																																
（3）所見																																					
令和元年度は、4クラブ増設し21クラブ750人を確保し、確保方策以上の受け入れをすることができました。 なお、令和2年度は西部小児童クラブを新設し、22クラブ775名の体制としました。																																					
7 委員から出された課題等																																					
<p><u>児童クラブの量の拡充と質の確保について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童クラブの質について、調査されていますか？今の子供たちは、ゲームに夢中で、児童クラブはつまらないからやめたいと親に言う子が多い印象があります。全体数としては増えていても、実は1人で家にいる子が実態として何人になるのか、把握して欲しいと思います。→一人で家にいる子が何人になるかについての把握は、全児童にアンケートを取る必要があります、アンケートを実施するかを含めて今後の検討課題といたします。 ニーズもあり、クラブ数、定員とも年々増やしていただき、「年度当初から申し込んでおかなければ、夏休みに利用することができない」ということがなくなり、「夏休みだけでも受付してもらえらるから」と必要な家庭が必要な時に利用できるという声をいくつも聞きます。 表からの数値が読み取れないので、確認ですが、6の自己評価にある定員750人を確保としている「750人」はどこを指しているのでしょうか？ ※事業名3では406人が表上で確認できます。 →全ての児童クラブの定員が満員というわけではありませんので、待機児童を作らないようにするためには実績値の717人よりも多い750人の定員の確保が必要となりました。 <p><u>児童クラブの場所について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者からの質問（「学校に全てのクラブを設置することは難しいか」）に対して、庶務課より「いずれは全クラブを学校に設置したい」という意向を示されましたが、児童の遠距離の移動（小学校～児童館）、同じ小学校の児童が別々の場所での預かり等の問題に対して、現在又は今後の教育委員会の動きについて示して頂けるとよいかと思います。 →学校と相談しながら、徐々に小学校内に児童クラブを増やしていきたいと思えます。 令和2年度も西部小学校敷地内にクラブを新設しました。ただし、将来数年間の計画を示していく段階には至っておりません。 																																					
8 この事業全体を通した課題																																					
子どもたちの放課後の適切な環境作りのために、保護者のニーズを把握し、量の拡充及び質の確保により一層取り組む必要があります。																																					

1 事業名	6	子育て短期支援事業（ ショートステイ ）	6 の続き																																															
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 利用内訳																																															
3 事業内容	保護者の病気や就労などの事由により、子どもの養育が一時的に困難となった場合に児童養護施設などで一時的に養育・保護します。 ショートステイの利用期間はおおむね7日以内です。		<table border="1"> <tr> <td>延利用者数 (人)</td> <td>実利用者数 (人)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3</td> </tr> </table>				延利用者数 (人)	実利用者数 (人)	12	3																																								
延利用者数 (人)	実利用者数 (人)																																																	
12	3																																																	
4 確保方策 (計画)	児童福祉施設（豊橋市内の児童養護施設2か所、乳児院1か所）の利用により確保計画数をすべて確保します。		(3) 所見																																															
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価			家庭児童相談室、保健師、コンシェルジュ経由の相談対応を通じて、家族、親類や知り合い等の支援者による子どもの見守り支援が受けられない支援が必要な家庭に対し、養護・保護先を提供し、子どもの心身の安全に寄与するよう努めています。																																															
(計画・実績値)			単位：人日／年																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>11</td> <td>19</td> <td>30</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>利用者数(D)</td> <td>11</td> <td>19</td> <td>30</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>利 用 率</td> <td>39.3%</td> <td>70.4%</td> <td>111.1%</td> <td>142.3%</td> <td>46.2%</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	28	27	27	26	26	確保方策(B)	28	27	27	26	26	実績値	利用申込数(C)	11	19	30	37	12	利用者数(D)	11	19	30	37	12	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0	利 用 率	39.3%	70.4%	111.1%	142.3%	46.2%	7 委員から出された課題等			
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																													
計画値	量の見込み(A)	28	27	27	26	26																																												
	確保方策(B)	28	27	27	26	26																																												
実績値	利用申込数(C)	11	19	30	37	12																																												
	利用者数(D)	11	19	30	37	12																																												
	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0																																												
利 用 率	39.3%	70.4%	111.1%	142.3%	46.2%																																													
※利用率：量の見込みと利用者数との比較【(D)÷(A)×100%】			事業の取り組みについて ・コンシェルジュといった独自の取り組みの活性化に期待いたします。																																															
(評価)																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	○	○	○	○	○	評価指標②	○	○	×	×	○	8 この事業全体を通じた課題																													
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																													
評価指標①	○	○	○	○	○																																													
評価指標②	○	○	×	×	○																																													
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）			必要とする方が活用できるように、今後もあらゆる機会をとらえて事業の周知を図ることが求められます。																																															
(1) 評価指標の補足説明																																																		
令和元年度のショートステイ利用施設については、例年同様、2歳未満児の受入先として「豊橋ひかり乳児院」、2歳以上児の受入先として児童養護施設「豊橋平安寮」・「豊橋若草育成園」と委託契約できたことから十分な体制は取れているものと捉えています。																																																		
平成29年度及び平成30年度については利用申込数が確保方策を上回っていましたが、令和元年度については利用申込数が確保方策値を下回り、評価指標②としても○となっています。																																																		
※29年度・30年度共に、利用申込数（＝申込者数）自体は確保方策値を超えた結果となりましたが、受入施設より定員オーバーなどで利用のお断りを受けたことはなく、希望日すべてに対応できています。																																																		

1 事業名	7	地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）	6の続き (2) 相談件数 <p style="text-align: right;">単位：件</p> <table border="1" data-bbox="1240 252 1962 395"> <tr> <td></td> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>相談件数</td> <td>356</td> <td>379</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>相談人数</td> <td>—</td> <td>169</td> <td>—</td> </tr> </table>					平成30年度	令和元年度	増減	相談件数	356	379	23	相談人数	—	169	—																																		
	平成30年度	令和元年度					増減																																													
相談件数	356	379					23																																													
相談人数	—	169					—																																													
2 事業担当課	子育て支援課																																																			
3 事業内容	公共施設や保育園等の地域の身近な場所で、子育て中の親子の交流・育児相談等の基本事業を実施するものです。																																																			
4 確保方策（計画）	既存の3か所の子育て支援センターで量の見込みをすべて確保します。																																																			
5 進捗状況（計画・実績値）及び評価 （計画・実績値） <p style="text-align: right;">単位：人回／年</p>			(3) 所見 今後も施設の周知や利用しやすい環境の工夫に取り組みつつ、潜在利用者の利用促進に力を入れていきたいと考えています。(2)から同じ利用者が繰り返し相談していることもわかります。引き続き相談しやすい雰囲気の中、丁寧に関わりながら、保護者支援に力を入れていきます。																																																	
<table border="1" data-bbox="277 534 1093 866"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>16,990</td> <td>16,793</td> <td>15,843</td> <td>15,467</td> <td>15,101</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> <td>3か所</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>12,442</td> <td>12,845</td> <td>13,715</td> <td>12,224</td> <td>13,221</td> </tr> <tr> <td>利用回数(D)</td> <td>12,442</td> <td>12,845</td> <td>13,715</td> <td>12,224</td> <td>13,221</td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">利 用 率</td> <td>73.2%</td> <td>76.5%</td> <td>86.6%</td> <td>79.0%</td> <td>87.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※利用率：量の見込みと利用回数との比較【(D)÷(A)×100%】</p>			区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	16,990	16,793	15,843	15,467	15,101	確保方策(B)	3か所	3か所	3か所	3か所	3か所	実績値	利用申込数(C)	12,442	12,845	13,715	12,224	13,221	利用回数(D)	12,442	12,845	13,715	12,224	13,221	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0	利 用 率		73.2%	76.5%	86.6%	79.0%	87.6%				
区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																														
計画値	量の見込み(A)	16,990	16,793	15,843	15,467	15,101																																														
	確保方策(B)	3か所	3か所	3か所	3か所	3か所																																														
実績値	利用申込数(C)	12,442	12,845	13,715	12,224	13,221																																														
	利用回数(D)	12,442	12,845	13,715	12,224	13,221																																														
	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0																																														
利 用 率		73.2%	76.5%	86.6%	79.0%	87.6%																																														
<p>（評 価）</p> <table border="1" data-bbox="277 949 1093 1093"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	○	○	○	○	○	評価指標②	—	—	—	—	—	7 委員から出された課題等 <u>潜在的利用者の利用促進について</u> ・潜在的利用者への利用促進に一層の配慮を期待いたします。																															
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																															
評価指標①	○	○	○	○	○																																															
評価指標②	—	—	—	—	—																																															
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課） (1) 評価指標の補足説明 令和元年度も、例年同様3か所で実施し、計画値を確保できる体制を確保できました（評価指標①）。 評価指標②については、本事業では直接の比較はできないものの、利用申込数から判断して現状の3か所での運営で対応できていると考えます。			8 この事業全体を通じた課題 保護者支援のため、利用しやすい環境作りに取り組むとともに、虐待防止の観点からも、引き続き潜在的利用者の利用促進を図る取り組みが求められます。																																																	

1 事業名	8	一時預かり事業	6の続き																																																																	
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 一時預かり事業の内訳 (幼稚園、保育園)																																																																	
3 事業内容	家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳児又は幼児について、主として昼間において、保育園その他の場所で一時的に預かる事業です。一時預かりには、幼稚園在園児を対象とした一時預かり (預かり保育) と保育園その他の場所での一時預かりがあります。		単位：人日/年																																																																	
4 確保方策 (計画)	幼稚園在園児を対象とした一時預かり (預かり保育)、保育園その他の場所での一時預かりのいずれも、既の実施している幼稚園又は保育園で量の見込みをすべて確保します。		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">令和元年度</th> </tr> <tr> <th>幼稚園 (預かり保育)</th> <th>保育園 (一時預かり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み (A)</td> <td>15,048</td> <td>5,716</td> </tr> <tr> <td>確保方策 (B)</td> <td>15,048</td> <td>10,800</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数 (C)</td> <td>6,272</td> <td>3,836</td> </tr> <tr> <td>利用者数 (D)</td> <td>6,272</td> <td>3,573</td> </tr> <tr> <td>差引 (C) - (D)</td> <td>0</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>41.7%</td> <td>62.5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区分	令和元年度		幼稚園 (預かり保育)	保育園 (一時預かり)	計画値	量の見込み (A)	15,048	5,716	確保方策 (B)	15,048	10,800	実績値	利用申込数 (C)	6,272	3,836	利用者数 (D)	6,272	3,573	差引 (C) - (D)	0	263	利用率	41.7%	62.5%																																					
区分	令和元年度																																																																			
	幼稚園 (預かり保育)	保育園 (一時預かり)																																																																		
計画値	量の見込み (A)	15,048	5,716																																																																	
	確保方策 (B)	15,048	10,800																																																																	
実績値	利用申込数 (C)	6,272	3,836																																																																	
	利用者数 (D)	6,272	3,573																																																																	
	差引 (C) - (D)	0	263																																																																	
利用率	41.7%	62.5%																																																																		
5 進捗状況 (計画・実績値) 及び評価			<p>(計画・実績値) 単位：人日/年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み (A)</td> <td>18,388</td> <td>17,729</td> <td>21,609</td> <td>21,047</td> <td>20,764</td> </tr> <tr> <td>確保方策 (B)</td> <td>18,986</td> <td>18,388</td> <td>26,445</td> <td>26,028</td> <td>25,848</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数 (C)</td> <td>11,719</td> <td>11,978</td> <td>14,081</td> <td>11,887</td> <td>10,108</td> </tr> <tr> <td>利用者数 (D)</td> <td>11,398</td> <td>11,764</td> <td>13,832</td> <td>11,550</td> <td>9,845</td> </tr> <tr> <td>差引 (C) - (D)</td> <td>321</td> <td>214</td> <td>249</td> <td>337</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>62.0%</td> <td>66.4%</td> <td>64.0%</td> <td>54.9%</td> <td>47.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※利用率：量の見込みと利用者数との比較【(D) ÷ (A) × 100%】</p> <p>(評価)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み (A)	18,388	17,729	21,609	21,047	20,764	確保方策 (B)	18,986	18,388	26,445	26,028	25,848	実績値	利用申込数 (C)	11,719	11,978	14,081	11,887	10,108	利用者数 (D)	11,398	11,764	13,832	11,550	9,845	差引 (C) - (D)	321	214	249	337	263	利用率	62.0%	66.4%	64.0%	54.9%	47.4%	評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	×	×	×	×	×	評価指標②	○	○	○	○	○
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																															
計画値	量の見込み (A)	18,388	17,729	21,609	21,047	20,764																																																														
	確保方策 (B)	18,986	18,388	26,445	26,028	25,848																																																														
実績値	利用申込数 (C)	11,719	11,978	14,081	11,887	10,108																																																														
	利用者数 (D)	11,398	11,764	13,832	11,550	9,845																																																														
	差引 (C) - (D)	321	214	249	337	263																																																														
利用率	62.0%	66.4%	64.0%	54.9%	47.4%																																																															
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																															
評価指標①	×	×	×	×	×																																																															
評価指標②	○	○	○	○	○																																																															
6 令和元年度事業に対する自己評価 (事業担当課)			<p>(1) 評価指標の補足説明</p> <p>令和元年度については、幼稚園の預かり保育 (通常の保育時間を超えて自園の児童を預かるもの) と保育園の一時預かり (保育園に入所していない児童を預かるもの) を実施しました。総数では計画値の範囲内でしたが、保育園の一時預かりでは利用調整を行ったので評価指標①は×としています。利用調整は実施園6園のうちある園が突出して多いため、実施園の見直しが必要と考えます。</p> <p>利用者数の減少の理由は令和元年度から木船幼稚園が、認定こども園になったことにより、今まで預かり保育を利用していた児童が減少したことがあげられます。</p> <p>7 委員から出された課題等</p> <p>実績値について</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の預かりがあり、総数で見てもよく分かりませんでした。 →「預かり保育」「一時預かり」と言葉がよく似ているのですが、預かり保育は、幼稚園に所属している園児が、幼稚園の基本の預かり時間が終わったあとも延長して幼稚園で子どもを預かる事業で、一時預かりとは、保育園に属していない子どもが一日または半日単位で保育園を利用することのできる事業です。総数は、1人の子どもが3回使ったら、3人と数えています。 <p>利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会状況の変化 (新型コロナウイルス) に左右される事業でもあることが再確認されたという思いです。 リフレッシュや保護者の用事の際利用でき、とてもよい事業であるため、よりよい子育てを実施できよう積極的な周知を引き続き希望します。 利用希望園に偏りがあるようですが、いろいろなニーズに対応できるよう実施する園が増えることを希望します。 →検討していきます。 <p>8 この事業全体を通した課題</p> <p>より良い子育てに繋げていくという観点から、引き続き、保護者に積極的に周知するとともに、いろいろなニーズに対応できるよう検討する必要があります。</p>																																																																	

1 事業名	9	病児保育事業	6の続き																																															
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 利用実績の内訳 (令和元年度)																																															
3 事業内容	地域の児童が発熱等で急に病気になった場合、病院等に付設された専用スペースにおいて、看護師等が一時的に保育する事業(病児対応型)と、病気が治っているものの、病気の回復期にあり集団保育が困難な児童を一時的に保育する事業(病後児対応型)とがあります。蒲郡市では市内の事業者を実施を委託しています(平成28年度から病児対応型に拡大)。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>利用児童の年齢</th> <th>延べ人数(人)</th> <th>病児保育</th> <th>病後児保育</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1歳</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2歳</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3歳</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4歳</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5歳</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6歳</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>				利用児童の年齢	延べ人数(人)	病児保育	病後児保育	1歳	0	0	0	2歳	5	5	0	3歳	0	0	0	4歳	2	1	1	5歳	4	3	1	6歳	0	0	0	計	11	9	2												
利用児童の年齢	延べ人数(人)	病児保育	病後児保育																																															
1歳	0	0	0																																															
2歳	5	5	0																																															
3歳	0	0	0																																															
4歳	2	1	1																																															
5歳	4	3	1																																															
6歳	0	0	0																																															
計	11	9	2																																															
4 確保方策(計画)	平成27年度までは現在の病後児対応型の受入施設で実施し、平成28年度からは病児対応型の担い手となる病院等を確保し、令和元年度までに量の見込みをすべて確保します。		※ 小学生の利用はありませんでした。																																															
5 進捗状況(計画値・実績値)及び評価			(3) 所見																																															
(計画・実績値)			確保方策と利用申込数とは大きな乖離があり、今後においても事業のPRに努め、真に必要とされている方が利用できるように取り組んでまいります。																																															
単位: 人日/年			7 委員から出された課題等																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>589</td> <td>574</td> <td>565</td> <td>551</td> <td>542</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>240</td> <td>240</td> <td>450</td> <td>525</td> <td>600</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>2</td> <td>18</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>利用者数(D)</td> <td>2</td> <td>18</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>0.3%</td> <td>3.1%</td> <td>2.1%</td> <td>1.1%</td> <td>2.0%</td> </tr> </tbody> </table>			区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	589	574	565	551	542	確保方策(B)	240	240	450	525	600	実績値	利用申込数(C)	2	18	12	6	11	利用者数(D)	2	18	12	6	11	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0	利用率	0.3%	3.1%	2.1%	1.1%	2.0%	<p>※利用率: 量の見込みと利用者数との比較【(D) ÷ (A) × 100%】</p>			
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																													
計画値	量の見込み(A)	589	574	565	551	542																																												
	確保方策(B)	240	240	450	525	600																																												
実績値	利用申込数(C)	2	18	12	6	11																																												
	利用者数(D)	2	18	12	6	11																																												
	差引(C)-(D)	0	0	0	0	0																																												
利用率	0.3%	3.1%	2.1%	1.1%	2.0%																																													
(評価)			<p>利用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度も利用が少なかったですね。原因を考えられて、改善できるといいですね。使い勝手がよくなることでしょうか? →病気の時には保護者に寄り添ってもらうことが一番であると考えますが、必要な方が利用しやすい事業となるよう検討します。 ※去年、インフルエンザの大流行時の対応などが、必要とありましたが大丈夫でしょうか? 特に今年はコロナも心配されます。 →1日3人を超える利用は過去にありませんが、対応については引き続き検討します。 利用については、医師により利用可能と判断された場合に利用できますが、インフルエンザやコロナなど、他児への感染の恐れが強い時は利用できません。 <p>周知について</p> <ul style="list-style-type: none"> ニーズはあると思いますが、その具体的な内容や手続きなどが(蒲郡市に限らず)十分に周知されていない事業かと思います。 必要な方に情報が届くような周知と使いやすいうようにしていくことが必要のように思います。 →周知の方法が十分でないことについて、改善の余地があります。子育てガイドブックにここに、病児病後児のページをもう少し大きく使って、手続きの方法まで詳しく載せていくなど、利用者にとって難しくないとってもらえるような周知の仕方考えます。 																																															
6 令和元年度事業に対する自己評価(事業担当課)			8 この事業全体を通した課題																																															
(1) 評価指標の補足説明			利用の周知に努めるとともに、必要な方が利用しやすい事業となるよう検討する必要があります。																																															
令和元年度についても、例年同様、市内の病児・病後児対応施設「おひさまキッズ」に事業を委託し、計画値を確保できる体制を実現できました(評価指標①)。																																																		
令和元年度には児童31人の新規登録があり、平成22年2月22日の事業開始時点から数えて254人の児童が登録を受けており、そのうち222人が小学6年生以下の利用対象児童です。																																																		
確保方策は利用申込数を上回っています(評価指標②: B-C)。																																																		

1 事業名	10	子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の 就学児童対象部分	6の続き																																															
2 事業担当課	子育て支援課		(2) 事業全体の実績（5以外の項目）																																															
3 事業内容	児童の預かり等の援助を希望する者（依頼会員）と、援助を行うことを希望する者（援助会員）との相互援助活動に関する連絡・調整を実施する事業です。		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">平成30年度</th> <th colspan="3">令和元年度</th> </tr> <tr> <th>全体</th> <th>就学児</th> <th>未就学児</th> <th>全体</th> <th>就学児</th> <th>未就学児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用申込数（人日／年）</td> <td>1,982</td> <td>327</td> <td>1,655</td> <td>2,560</td> <td>543</td> <td>2,017</td> </tr> <tr> <td>利用者数（人日／年）</td> <td>1,523</td> <td>207</td> <td>1,316</td> <td>2,096</td> <td>424</td> <td>1,672</td> </tr> <tr> <td>利用者数の比率</td> <td></td> <td>14%</td> <td>86%</td> <td></td> <td>20%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	平成30年度			令和元年度			全体	就学児	未就学児	全体	就学児	未就学児	利用申込数（人日／年）	1,982	327	1,655	2,560	543	2,017	利用者数（人日／年）	1,523	207	1,316	2,096	424	1,672	利用者数の比率		14%	86%		20%	80%										
区 分	平成30年度			令和元年度																																														
	全体	就学児	未就学児	全体	就学児	未就学児																																												
利用申込数（人日／年）	1,982	327	1,655	2,560	543	2,017																																												
利用者数（人日／年）	1,523	207	1,316	2,096	424	1,672																																												
利用者数の比率		14%	86%		20%	80%																																												
4 確保方策（計画）	援助会員を50人（平成25年度末39人）まで増やし、平成30年度までに確保計画数をすべて確保します。実績を踏まえて、利用者の1割が就学児の利用と想定します。																																																	
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価	(計画・実績値) 単位：人日／年 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>1,276</td> <td>1,264</td> <td>1,252</td> <td>1,247</td> <td>1,235</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>1,250</td> <td>1,250</td> <td>1,250</td> <td>1,250</td> <td>1,250</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">実績値</td> <td>利用申込数(C)</td> <td>369</td> <td>471</td> <td>479</td> <td>327</td> <td>543</td> </tr> <tr> <td>利用者数(D)</td> <td>281</td> <td>412</td> <td>384</td> <td>207</td> <td>424</td> </tr> <tr> <td>差引(C)-(D)</td> <td>88</td> <td>59</td> <td>95</td> <td>120</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>22.0%</td> <td>32.6%</td> <td>30.7%</td> <td>16.6%</td> <td>34.3%</td> </tr> </tbody> </table> ※利用率：量の見込みと利用者数との比較【(D)÷(A)×100%】		区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	1,276	1,264	1,252	1,247	1,235	確保方策(B)	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	実績値	利用申込数(C)	369	471	479	327	543	利用者数(D)	281	412	384	207	424	差引(C)-(D)	88	59	95	120	119	利用率	22.0%	32.6%	30.7%	16.6%	34.3%	※前年度と比較して、事業全体の利用申込数・利用者数はともに大きく増加しています。これに伴う形で、就学児の利用者数も217件(人)増加しましたが、増加要因としては、様々な利用形態がまんべんなく増えたというのではなく、特定の利用形態が突出したものとなっています。			
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																													
計画値	量の見込み(A)	1,276	1,264	1,252	1,247	1,235																																												
	確保方策(B)	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250																																												
実績値	利用申込数(C)	369	471	479	327	543																																												
	利用者数(D)	281	412	384	207	424																																												
	差引(C)-(D)	88	59	95	120	119																																												
利用率	22.0%	32.6%	30.7%	16.6%	34.3%																																													
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）	(1) 評価指標の補足説明 援助会員を85人確保しており（令和元年度末）、計画値を確保できる体制を維持しています（評価指標①）。確保方策は利用申込数を上回っています（評価指標②：B-C）。実績値の差引119件(人)については、前年度同様、他に見てもらえる人ができたなど利用者側の都合によりキャンセルとなった件数です。		(3) 所見 就学児に関する利用状況としては、子どもの習い事等の場合の援助が最も多くなっています。平日の夕方から夜にかけての利用が主なため、このようなニーズに対応していただける援助会員を確保できるよう、引き続き、周知活動に努めていきたいと考えています。																																															
			7 委員から出された課題等 <u>援助会員の確保について</u> ・援助と支援の違いは・・・？「援助会員」など固有名詞として使っているからですか？ →本事業は、国の定める「子育て援助活動支援（ファミリー・サポート・センター事業）実施要綱」をもとに展開しておりますが、その要綱に掲載の事業の目的として、「援助を受けたい者と当該援助を行いたい者との相互援助活動に関する連絡、調整を行うこと」と明記されており、会員各々の活動については「援助」、その調整を図るためのセンターの役割として「（会員の活動の各々の）支援」という位置づけとなります。 ・報告にありますようにニーズとそれに応えられる受け手が一致しないという問題が多くあるように思います。引き続きの周知活動に期待いたします。 ・子どもの習い事の送迎に関しては、部活動もなくなっていくので、今後も依頼が増えるのではないのでしょうか？委託先を見つけるなどの方策を考えるとあります。 ・所見にありますように就学児の利用は児童クラブの迎えから習い事への送りが増えてきている為、送迎可能な（車の運転ができる）援助会員の確保が必要となっています。 →現在の活動は、主に50歳代（約30%）、60歳代（約50%）の方を中心に支えられておりますが、これらの援助会員の皆さん自身も仕事を持ちながらできる範囲で援助を引き受けていただいている方が多い状況にあります。従いまして、引き続きより多くの方に援助会員になっていただくよう働きかけることはもちろんのこと、具体的にこのような援助（送迎）ができる方を募集していることもアピールしながら会員確保に努めることが重要であるとと考えています。																																															
			8 この事業全体を通した課題 引き続き、支援を必要としている方へ事業周知に努めるとともに、依頼会員のニーズに応えられる援助会員の確保が求められます。																																															

1 事業名	11	利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）	6の続き (2) 相談等の利用実績																																						
2 事業担当課	子育て支援課																																								
3 事業内容	子ども又は子どもの保護者が身近な場所において、相談に基づき子ども・子育て支援に係る情報提供、事業の利用について、必要なときに支援が受けられる事業を行います。																																								
4 確保方策（計画）	平成27年度から平成30年度までは既存の子育て支援センター2か所と市役所窓口で実施し、令和元年度までに子育て世代包括支援センターと児童発達支援センターの整備を進め、4か所での実施を目指します。																																								
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価			6の続き (2) 相談等の利用実績 <table border="1" data-bbox="1196 248 2040 520"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">相談件数(件)</th> <th colspan="3">地域</th> <th rowspan="2">包括</th> <th rowspan="2">相談人数(人)</th> </tr> <tr> <th>西部</th> <th>中央</th> <th>子育て支援課</th> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>1,604</td> <td>172</td> <td>195</td> <td>1,237</td> <td></td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>2,934</td> <td>339</td> <td>313</td> <td>2,282</td> <td></td> <td>2,045</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>2,826</td> <td>401</td> <td>300</td> <td>2,125</td> <td></td> <td>2,128</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,831</td> <td></td> <td>593</td> <td>2,042</td> <td>196</td> <td>2,197</td> </tr> </table> (3) 所見 子育て世代包括支援センター開設により、今まで手薄であった部分のニーズにも対応することが可能になりました。子育て支援センター、子育て支援課、子育て世代包括支援センター、それぞれの事業実施形態メリットを活かした利用者支援を実施するよう心掛けてきました。《子育て支援センター》育児、子どもの健康、育児ストレス、将来的な入園等に関する来所相談、街角コンシェルジュなどの出張相談への対応、『子育てコンシェルジュ便り』の定期発行(隔月)、ホームページ掲載等タイムリーな子育て情報の発信・提供の継続 《子育て支援課》入園、関係機関と連携した家庭や子ども・保護者への支援等の幅広い案件に関する相談対応、『子育てコンシェルジュ便り』の定期発行(隔月)、ホームページ掲載等タイムリーな子育て情報の発信・提供の継続 《子育て世代包括支援センター》母子手帳交付・健診時の相談、要支援産婦や転入者支援 子育て世代包括支援センターの周知及び、どの事業所の子育てコンシェルジュも低年齢だけでなく18歳までの子育てに係る相談に対応できること等、周知方法の改善を図っていきたく考えています。		相談件数(件)	地域			包括	相談人数(人)	西部	中央	子育て支援課	平成28年度	1,604	172	195	1,237		1,224	平成29年度	2,934	339	313	2,282		2,045	平成30年度	2,826	401	300	2,125		2,128	令和元年度	2,831		593	2,042	196	2,197
	相談件数(件)	地域				包括	相談人数(人)																																		
		西部	中央	子育て支援課																																					
平成28年度	1,604	172	195	1,237		1,224																																			
平成29年度	2,934	339	313	2,282		2,045																																			
平成30年度	2,826	401	300	2,125		2,128																																			
令和元年度	2,831		593	2,042	196	2,197																																			
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）			7 委員から出された課題等 事業の取り組みについて ・一層の活性化に期待いたします。 8 この事業全体を通した課題 引き続き、子どもや保護者が身近な場所において、必要なときに子育て支援が受けられるよう情報発信及び提供が求められます。																																						

1 事業名	12	乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）	6の続き																																			
2 事業担当課	健康推進課		(2) 訪問実施率と訪問未実施者への対応（令和元年度）																																			
3 事業内容	生後4か月までの乳児のいる家庭に訪問し、育児相談、子育てに関する情報提供や養育環境の把握を行う事業です。蒲郡市が直営で実施しています。子育てに関する不安の解消を図るとともに虐待の早期発見や予防を図ります。		<table border="1"> <tr> <td>訪問実施率</td> <td>99.2%</td> </tr> <tr> <td>未実施の理由</td> <td>未実施15名のうち、次年度4月に入ってから訪問4人、里帰りが長く対象時期である4か月までに自宅に戻ってこない3名等</td> </tr> <tr> <td>未実施者への対応</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 電話相談 4か月児健診での面接 里帰り先の市町村の保健師への訪問依頼 外国人の方で通訳が必要な方へはあいち医療通訳システムを利用し、通訳の方と同行訪問し相談実施 </td> </tr> </table>				訪問実施率	99.2%	未実施の理由	未実施15名のうち、次年度4月に入ってから訪問4人、里帰りが長く対象時期である4か月までに自宅に戻ってこない3名等	未実施者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 電話相談 4か月児健診での面接 里帰り先の市町村の保健師への訪問依頼 外国人の方で通訳が必要な方へはあいち医療通訳システムを利用し、通訳の方と同行訪問し相談実施 																										
訪問実施率	99.2%																																					
未実施の理由	未実施15名のうち、次年度4月に入ってから訪問4人、里帰りが長く対象時期である4か月までに自宅に戻ってこない3名等																																					
未実施者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 電話相談 4か月児健診での面接 里帰り先の市町村の保健師への訪問依頼 外国人の方で通訳が必要な方へはあいち医療通訳システムを利用し、通訳の方と同行訪問し相談実施 																																					
4 確保方策（計画）	赤ちゃん訪問員や保健師、助産師による訪問実施体制により、赤ちゃんが生まれたすべての家庭に対し、生後3か月までに家庭訪問します。		(3) 所見																																			
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価			訪問未実施15名の状況把握はできており、必要に応じ里帰り先依頼や面接等行えています。																																			
(計画・実績値)			単位：人／年																																			
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>560</td> <td>546</td> <td>532</td> <td>520</td> <td>507</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師9名</td> <td>赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師9名</td> <td>赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師11名</td> <td>赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名</td> <td>赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師13名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">実績値</td> <td>実施体制(C)</td> <td>赤ちゃん訪問員26名 助産師2名 保健師10名</td> <td>赤ちゃん訪問員24名 助産師2名 保健師10名</td> <td>赤ちゃん訪問員24名 助産師2名 保健師11名</td> <td>赤ちゃん訪問員25名 助産師2名 保健師12名</td> <td>赤ちゃん訪問員22名 助産師2名 保健師12名</td> </tr> <tr> <td>訪問件数(D)</td> <td>557</td> <td>512</td> <td>490</td> <td>549</td> <td>495</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	560	546	532	520	507	確保方策(B)	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師9名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師9名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師11名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師13名	実績値	実施体制(C)	赤ちゃん訪問員26名 助産師2名 保健師10名	赤ちゃん訪問員24名 助産師2名 保健師10名	赤ちゃん訪問員24名 助産師2名 保健師11名	赤ちゃん訪問員25名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員22名 助産師2名 保健師12名	訪問件数(D)	557	512	490	549	495
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																	
計画値	量の見込み(A)	560	546	532	520	507																																
	確保方策(B)	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師9名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師9名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師11名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員27名 助産師2名 保健師13名																																
実績値	実施体制(C)	赤ちゃん訪問員26名 助産師2名 保健師10名	赤ちゃん訪問員24名 助産師2名 保健師10名	赤ちゃん訪問員24名 助産師2名 保健師11名	赤ちゃん訪問員25名 助産師2名 保健師12名	赤ちゃん訪問員22名 助産師2名 保健師12名																																
	訪問件数(D)	557	512	490	549	495																																
(評価)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	○	○	○	○	○	評価指標②	○	○	○	○	○														
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																	
評価指標①	○	○	○	○	○																																	
評価指標②	○	○	○	○	○																																	
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）			7 委員から出された課題等																																			
(1) 評価指標の補足説明			訪問員について																																			
令和元年度は、概ね量の見込み程度の実績を確保できる体制を確保し、赤ちゃん訪問を実施することができました。（評価指標①）。赤ちゃん訪問の実施は、現状の訪問者の人数で対応できていますが、訪問員が減少傾向にあり、地区により偏りがあるため、地区を超えた訪問員の活用が必要と考えます。（評価指標②：B-C）			<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃん訪問員になるには何か資格が必要ですか。 →蒲郡市が企画する「赤ちゃん訪問員養成講座」を受けていただいた方を、赤ちゃん訪問員として認定しています。 訪問員はお若い方ですか。 →30代から70代までの方が認定を受けています。 																																			
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）			8 この事業全体を通した課題																																			
			ほとんどの家庭に訪問できており、未実施の状況把握もできています。引き続き、早期の訪問と支援が求められます。																																			

1 事業名	13	養育支援訪問事業	6の続き																																																					
2 事業担当課	健康推進課		(2) 妊娠期及び産後間もなくといった早期からの支援（令和元年度）																																																					
3 事業内容	<p>養育支援が特に必要な家庭を訪問し、保護者の育児、家事等の養育能力を向上させるための相談支援、育児・家事援助を行う事業です。蒲郡市が直営で実施しています。家庭での適切な養育の実施を確保することで乳幼児の健やかな成長や虐待の予防を図ります。</p>		<table border="1"> <tr> <td>10世帯</td> <td>実11人</td> <td>対応：関係機関と連携して支援</td> </tr> </table>			10世帯	実11人	対応：関係機関と連携して支援	<p>(3) 所見</p> <p>保健師を中心として、地域の子育て関係機関と連携しながら支援しています。必要な方に支援ができていないかを検討していきます。</p>																																															
10世帯	実11人	対応：関係機関と連携して支援																																																						
4 確保方策（計画）	保健師や助産師、看護師による訪問実施体制により、こんにちは赤ちゃん訪問や各種健診を通じて養育支援の必要性が認められる家庭を訪問します。																																																							
5 進捗状況（計画値・実績値）及び評価			7 委員から出された課題等																																																					
<p>(計画・実績値)</p> <p style="text-align: center;">単位：人／年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画値</td> <td>量の見込み(A)</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>確保方策(B)</td> <td>助産師 2名 看護師 1名 保健師 9名</td> <td>助産師 2名 看護師 1名 保健師 9名</td> <td>助産師 2名 看護師 1名 保健師 11名</td> <td>助産師 2名 看護師 1名 保健師 12名</td> <td>助産師 2名 看護師 1名 保健師 13名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">実績値</td> <td>実施体制(C)</td> <td>助産師 2名 看護師 1名 保健師 10名</td> <td>助産師 2名 看護師 1名 保健師 10名</td> <td>助産師 2名 保健師 11名</td> <td>助産師 2名 保健師 12名</td> <td>助産師 2名 保健師 13名</td> </tr> <tr> <td>訪問件数(D)</td> <td>実38人・25世帯 延べ168人</td> <td>実35人・27世帯 延べ150人</td> <td>実25人・17世帯 延べ42人</td> <td>実48人・25世帯 延べ55人</td> <td>実35人・26世帯 延べ118人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標名</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価指標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>評価指標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	計画値	量の見込み(A)	29	29	35	34	34	確保方策(B)	助産師 2名 看護師 1名 保健師 9名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 9名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 11名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 12名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 13名	実績値	実施体制(C)	助産師 2名 看護師 1名 保健師 10名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 10名	助産師 2名 保健師 11名	助産師 2名 保健師 12名	助産師 2名 保健師 13名	訪問件数(D)	実38人・25世帯 延べ168人	実35人・27世帯 延べ150人	実25人・17世帯 延べ42人	実48人・25世帯 延べ55人	実35人・26世帯 延べ118人	評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価指標①	○	○	○	○	○	評価指標②	○	○	○	○	○	<p>支援世帯について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10世帯 実11人 1つの世帯に2人の妊婦さんがいたということですか？ →妊婦だけでなく、産後まもない世帯も数に入っています。1世帯に子どもが2人いました。 ・支援世帯（家庭）は継続して行われていると思います。改善されるような取り組みはあるのでしょうか？ →「改善」が、保健師の訪問・相談で解決できないこともあります。ショートステイや保育園などを利用して、育児ストレスの高いときに一度、子どもと離れて、母親のストレスを軽減して改善しているのが現状です。保健師だけではできず、子育て支援センターのコンシェルジュや保育士に話を聞いてもらったりして、ストレスを改善して子育て支援に繋がっています。 ・一連の事業の中でも個々の緊急性や必要性に偏りの生じる事業と拝察いたします。 			
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																			
計画値	量の見込み(A)	29	29	35	34	34																																																		
	確保方策(B)	助産師 2名 看護師 1名 保健師 9名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 9名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 11名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 12名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 13名																																																		
実績値	実施体制(C)	助産師 2名 看護師 1名 保健師 10名	助産師 2名 看護師 1名 保健師 10名	助産師 2名 保健師 11名	助産師 2名 保健師 12名	助産師 2名 保健師 13名																																																		
	訪問件数(D)	実38人・25世帯 延べ168人	実35人・27世帯 延べ150人	実25人・17世帯 延べ42人	実48人・25世帯 延べ55人	実35人・26世帯 延べ118人																																																		
評価指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																																			
評価指標①	○	○	○	○	○																																																			
評価指標②	○	○	○	○	○																																																			
6 令和元年度事業に対する自己評価（事業担当課）			8 この事業全体を通した課題																																																					
<p>(1) 評価指標の補足説明</p> <p>令和元年度については、量の見込みを上回る多くの訪問を実施することができました。家庭の状況により頻回な支援が必要な家庭もあり、延べ訪問件数は増加してきています。今後も家庭の状況に合わせた継続支援が実施できるように実施体制（人数）の確保が必要であると考えます。（評価指標②：B-C）。</p>			<p>頻回な支援が必要な家庭が増えていきます。これまで以上に関係機関と連携して、すべての家庭に必要な支援を受けることができるよう実施体制を構築することが求められます。</p>																																																					

1 事業名	14	妊婦健康診査	6 の続き							
2 事業担当課	健康推進課		(2) 母子健康手帳発行数 (令和元年度末)							
3 事業内容	妊婦の健康の保持及び増進を図るため、妊婦に対して健康診査を実施する事業です。		<table border="1"> <tr> <td>母子健康手帳発行数</td> <td>(再掲) 妊婦健診の1回目受診件数</td> </tr> <tr> <td>543件</td> <td>514件</td> </tr> </table>				母子健康手帳発行数	(再掲) 妊婦健診の1回目受診件数	543件	514件
母子健康手帳発行数	(再掲) 妊婦健診の1回目受診件数									
543件	514件									
4 確保方策 (計画)	母子健康手帳交付時に、県内医療機関で妊婦健診が公費で受けられる受診票を交付し、すべての妊婦が県内統一検査項目の健康診査を受診できるよう医療機関に委託します。		<p>※ 令和2年3月に母子健康手帳 (妊婦健康診査受診票) 交付している方の受診状況が反映されていないため、発行数と受診件数に違いがあることが推測されます。</p>							
5 進捗状況 (計画値・実績値) 及び評価			(3) 所見							
(計画・実績値)			母子健康手帳交付から妊婦健診・乳幼児健診とカルテで一元的に管理しています。							
単位: 人/年										
区分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度				
計画値	量の見込み (A)	560	546	532	520	507				
	確保方策 (B)	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託				
実績値	実施体制 (C)	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託	医療機関委託				
	受診件数 (D)	581	541	559	548	514				
(評価)			7 委員から出された課題等							
			<p>事業の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きの連携の充実に期待いたします。 							
6 令和元年度事業に対する自己評価 (事業担当課)			8 この事業全体を通じた課題							
(1) 評価指標の補足説明			ほとんどの妊婦が健診を受診できており、引き続き現在の実施体制で健診を実施し、妊婦の健康の保持及び増進を図ることが求められます。							
令和元年度についても、例年同様、委託により量の見込みを確保できる体制を計画どおり確保できました (評価指標①)。引き続き医療機関へ委託することで、妊娠中の健康の保持・増進に努めていきます (評価指標②: B-C)。										

【参考】平成30年度事業の点検・評価（令和元年10月実施）に対する改善内容

事業・項目名		今後の課題（子ども・子育て会議）	改善内容（事業担当課）
1	1号認定 （3歳以上保育の必要なし）	幼児教育・保育の無償化に伴い、幼稚園の園児数の推移や預かり保育の利用状況等の把握が必要となるため、これまで以上に幼稚園との情報共有や事務手続き等の連携を密にする必要があります。	引き続き、幼稚園との情報共有や事務手続き等の連携を密にすることを努めます。
2	2号認定 （3歳以上保育の必要あり）	3歳以上の未就園児について、人数等の実態把握の方法について検討する必要があります。	関係機関と情報共有を図り、未就園児について、人数等の実態把握に努めます。
3	3号認定 （3歳未満保育の必要あり）	低年齢児保育ニーズの増加により、低年齢児の受け皿確保が課題となっています。併せて、保育の質の確保にも十分配慮することが必要です。	保育の質にも十分配慮しながら、待機児童が生じないよう低年齢児の受け皿の確保や保育士の確保に努めます。
4	時間外保育事業 （延長保育事業）	家庭で子どもと十分過ごすことができるような労働環境の改善についての検討が求められます。	家庭で子どもと十分過ごすことができるような労働環境の改善についての検討を続けます。
5	放課後児童健全育成事業 （児童クラブ）	児童の安全性の観点から、児童クラブの小学校内での開設が求められます。また、支援員の確保及び専門性を充実させることが課題となっています。	令和元年度は量の更なる拡充として、4つの児童クラブを新たに開設し、定員を650人から750人にします。また、質の確保にも努めます。
6	子育て短期支援事業 （ショートステイ）	引き続き、あらゆる機会をとらえて事業の周知を図ることが求められます。	家庭児童相談室、保健師、コンシェルジュ経由の相談対応など、引き続き、支援の必要な家庭が速やかに利用できるように努めていきます。
7	地域子育て支援拠点事業 （子育て支援センター事業）	虐待防止の観点からも、潜在的利用者の利用促進を図る取り組みが求められます。	引き続き、センターや活動内容の周知と、関係機関との連携を密にしながら潜在的利用者の利用促進に努めます。
8	一時預かり事業	より良い子育てに繋げていくという観点から、引き続き、一時預かりのリフレッシュのための利用が可能であることを、保護者に積極的に周知することが求められます。	新型コロナウイルスの関係でリフレッシュでの利用を一次縮小しなければならなかったことが悔やまれます。未満児の受け入れができるように努めます。
9	病児保育事業	1日の受入定員は3人であるため、インフルエンザの大流行などで一定期間に利用が集中し受入ができない場合の対応について検討が必要です。	事業の内容の周知に力をいれてきました。引き続き、イベント等でのチラシの配布を通して周知していきます。
10	子育て援助活動支援事業 （ファミリーサポートセンター事業）	引き続き、援助会員が少ない地域や依頼会員のニーズが多い朝や帰りの時間帯で援助ができる会員の確保が求められます。	既援助会員等の人脈を中心に、援助することの良さや楽しさをアピールし、援助会員の新規獲得に努めていきます。
11	利用者支援事業 （子育てコンシェルジュ）	子どもや保護者が必要なときに必要な子育て支援を受けられるように、引き続き、情報発信の充実が求められます。	子育てコンシェルジュの配置場所におけるそれぞれの役割の分析・評価をし事業内容に反映していきます。ホームページ掲載内容の拡充とともに、子育てコンシェルジュ便りを通して、タイムリーな情報発信を継続します。
12	乳児家庭全戸訪問事業 （こんにちは赤ちゃん訪問）	ほとんどの家庭に訪問できており、約半数が生後1か月までに訪問しています。引き続き、早期の訪問と支援が求められます。また、訪問の結果、継続支援の必要な家庭については、養育環境の把握をすとともに、子育て相談や個別対応による支援が必要です。	引き続き、全家庭を訪問できるように努めていきます。訪問できなかった場合は、地区の担当保健師が4か月児健診来所時に面接し情報提供や養育支援方法を確認していきます。
13	養育支援訪問事業	新規の養育支援の家庭が増えています。対象者や訪問回数等、支援の量が増加した場合においても、すべての家庭に必要な支援を受けることができる実施体制の維持が求められます。	支援の必要な家庭が増えており、これまで以上に各機関が連携し、協力する体制を構築していく必要があります。
14	妊婦健康診査	医療機関委託で実施していますが、ほとんどの妊婦が健診を受診できており、引き続き現在の実施体制で健診を実施するとともに、健診の結果で異常の所見があった妊婦へこれまで以上に充実した対応が求められます。	引き続き、医療機関と連携し、妊産婦・乳児健診の受診勧奨に努めていきます。
その他全体にかかわる課題		事業の利用に繋がっていない潜在的利用者への更なる周知が求められます。また、量の確保とともに各事業内容のさらなる質の充実を図っていくことが必要です。	関係機関との連携を密にしながら潜在的利用者への周知方法の改善に努めていきます。また、各事業について量の確保及び事業内容のさらなる質の充実にも努めていきます。